

2023年も残りわずかとなりました。5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「5類」に分類されて以降、キャンパスにも次第に活気が戻ってきました。この1年を各学科、事務部門のトップに振り返ってもらいました。(NL編集部)

## 2023年を 振り返る

### 正常化に踏み出した1年

竹屋 元裕 学長

Covid-19が5類に移行し、大きく正常化に踏み出した1年であった。各種スポーツ団体との連携協定締結、県内自治体との協同による健康増進活動、県内高校との連携による多様な活動の進展など、社会へのアウトリーチ活動が大きく展開した。2年目を迎えた「からだのふしぎ探検」、正常開催となった「杏祭」も大盛況であった。この流れをぜひ来年につなげたい。

8月のオープンキャンパスには、過去2番目となる1057人の高校生や保護者が訪れ、盛況となりました



### 走り出した新たな中期計画

河瀬 晴夫 事務局長

今年度から新たな中期計画が走り出しました。「保健医療系の大学として、我が国のリーディング大学の一つになる」という将来ビジョンに向け、それぞれの部門で期間目標を定めています。この目標を着実に達成していくため、20近いプロジェクト等を動かし、熊保大をより良く元気にするため、皆で力を合わせて取り組んだ1年でした。

# コロナ禍乗り越えキャンパスに活気

### 魅力ある学科へ「ホップ」

上仲 一義 医学検査学科長

今年度は第2期中期計画がスタートして最初の1年となりました。三段跳びでいうところのホップの年です。本中期計画では、魅力ある学科を目指して、分野・領域制の導入、留年率や国試合格率改善といった施策に取り組み始めています。学生ファーストの気持ちを忘れることなく、来年以降のステップそしてジャンプにつなげたいと思っています。

### 「新たな日常」の始まり実感

多久島 寛孝 看護学科長

今年度は対面授業の全面再開から始まりました。この5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になり、まだまだ制約はあるものの臨地実習の大半を臨地で行うことができるなど学修環境も整いつつあります。「新しい日常」の社会になって久しいですが、講義室、図書館、レストランなど学内の学生の姿から活気ある「新たな日常」が始まったことを感じた一年でした。

### 臨床実習 無事に実施

田中 聡リハビリテーション学科長

今年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へと分類されましたが、医療の現場では、感染症の予防対策は必須な状況です。今年度は、現場の実習指導者の先生方のご協力もあり、本学科の臨床実習を無事に実施することができました。来年度も、より多くの学びに満ちた臨床実習が実施できるよう、学生の皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。

# クマモトでの9日間 動画に

## 大邱保健大の交換研修生 学内コンテストで最優秀賞

今年7月に本学との交換研修生として来熊した韓国・大邱保健大学の学生が、熊本での研修や交流の様態を収めた動画を作成。このほど、同大学で開催された学内動画コンテストで最優秀賞に輝きました。

ミン・チョンウンさんら8人の学生は、7月3日から9日間、熊本に滞在。本学での授業体験や施設見学、県内医療施設訪問のほか、県内の名所観光や本学学生たちとの交流の機会もあり、全員が熊本ライフを満喫しました。約6分間の作品では、研修、交流の様態などが余すところなく紹介されており、画面を分割したり、イラストを入れたりするなどして見せる動画にもなっています。

学内コンテストは初めて開催されたといい、過去に国外研修に参加した学生たちが、研修や現地での交流の様態などを動画にしてYouTubeで配信。約30本の応募があった中で、ミンさんらの作品は優れた画像や構成だけでなく、本学が提供した研修内容そのものも高い評価を受けたということです。

韓国文化研究クラブ顧問の申敏哲教授（リハビリテーション学科理学療法専攻）によると、本学からの派遣研修生も含め、本学と大邱保健大学の学生との個人レベルでの交流が続いているということです。（NL編集部）



写真上は、動画の一場面。同下は、7月3日のウエルカムパーティーで本学スタッフと談笑する大邱保健大学の交換研修生たち

※動画は、次のURLまたは右のQRコードで見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=RT31mWQE5Uk>



共通教育センター

山鹿 敏臣講師

## Chat GPT の基本説き 文章作成など実演

図書館と数理データ・サイエンス・AI教育部会共催の「私の部屋でランチを」が13日（水）、キャンパステラスで開催され、共通教育センターの山鹿敏臣講師＝写真＝が「まずは使ってみよう！Chat GPT」と題して生成AIのひとつ無料版Chat GPTの基本的な使い方などについて話しました。

山鹿講師は、対話文のやり取りの中で、文章作成やアイデアの提案などが可能なChat GPTの基本的な考え方や仕様などについて解説した後、文章作成や添削を約26人の参加者の前で実演してみせました。

一方で情報漏洩の危険性や、回答に情報として正しくないものが混ざることがあることも指摘。生成AIの利用については「個人情報の入力避け、疑う姿勢を持って情報を鵜呑みにしないことも大事」と訴えました。

山鹿講師は、26日（火）に開催される「サイエンスカフェ」でも「業務に使ってみよう！Chat GPT」と題して、有料版Chat GPTの利用法について講演します。

（入試・広報課）

生成AIの使用に関して「個人情報の入力は避けて」と、注意を促す山鹿講師



助産別科生19人を対象とした新生児蘇生法(NCPR)講習会が14日(木)、3109M講義室でありました。新生児の救命と重篤な障害の回避のために、標準的な新生児蘇生法の理論と技術を身につけるのが狙いです。

学生たちは、新生児蘇生法の基本を学んだ後、出生時の状態評価や蘇生の初期処置、胸骨圧迫などの基本手技に挑みました。引き続き、新生児蘇生が必要な場面を想定したケースシナリオによる実習を通じ、学びを確実なものにしていました。

助産別科生の古川里梨香さんは「新生児蘇生法を学び、助産師として新生児の救命に携われることや、自分のスキルアップができることに喜びを感じます。ローリスク産婦の分娩実習を実施した後にNCPRを受けることで、助産の学びが深まりました」と講習会を振り返りました。

(入試・広報課)

真剣な表情で、ケースシナリオによる実習に取り組む助産別科の学生たち



## 「繊細なコミュニケーション重要」

### プロ野球ソフトバンクAT 門田さんがミニ講演

プロ野球ソフトバンクホークスでアスレチックトレーナー(AT)を務める門田大祐さんが14日(木)、本学キャンパステラスでミニ講演会を開き、リハビリテーション学科理学療法学専攻の1、2年生14人を前に自身が経験したアメリカのPT/AT教育やプロ野球球団入団の経緯、アスレチックトレーナーの役割などについて語りました。

荒尾市出身の門田さんは岩下佳弘准教授(同専攻)の知人で、毎年オフシーズンに岩下准教授の要請に応じて、本学でミニ講演会を開いてくれています。

講演は学生たちから事前に寄せられた質問に回答する形で進められました。門田さんによると、アメリカのATは資格の更新が2年おきにあるということです。また、日本のプロ球団にATとして入るには、一般公募のほか知り合いを通じての売り込みがあるということ、前任の埼玉西武ライオンズ時代も含め自身の経験を交えながら語りました。

アスレチックトレーナーの役割に話が及ぶと、身体的なケアはもちろんのこと心理的なケアが必要として、選手との繊細なコミュニケーションの重要性を強調していました。学生時代の勉強としては、「解剖学や運動学、生理学の知識が最も重要。これらを基礎として評価技術を身に付ける必要がある」と話しました。(入試・広報課)



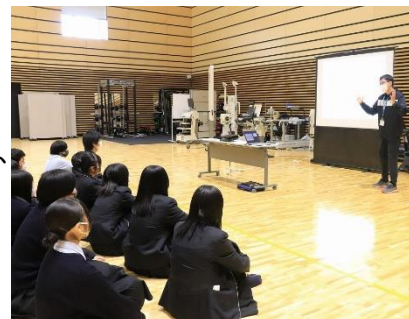
理学療法学専攻の1、2年次生を前にアスレチックトレーナーの役割などを話す門田さん

## 銀杏アラカルト

■4年ぶり学園忘年会 銀杏学園の忘年会が15日(金)、ザ・フォレストテラス熊本に約140人の教職員が参加して開催されました。コロナ禍のため昨年まで中止が続いており、4年ぶりの開催です。木下統晴理事長の挨拶で開会、竹屋元裕学長の乾杯で会食が始まりました。新規入職者による出し物や竹屋学長によるロック歌手張りの歌も飛び出し、大いに盛り上がりました。

(入試・広報課)

■南稜高校1年生が来学 熊本県立南稜高校(あさぎり町)の普通科1年生32人が14日(木)に来学し、模擬授業等を体験しました。一行は入試・広報課の職員から大学概要の説明を受けた後、アリーナに移動し、リハビリテーション学科理学療法学専攻の久保下亮准教授による模擬授業を受講。自転車エルゴメーターを使った無酸素性持久力の計測やデータ解釈を経験しました。その後、生徒たちは図書館やレストランなどを見て回りました。(入試・広報課)



運動に関わるエネルギー供給機構について講義をする久保下准教授(右)

週間行事予定（12月26日～1月15日）	
12 / 27（水）	仕事納め式
1 / 6（土）	キャリア教育研修センター入試 認定看護師教育課程（認知症看護分野・脳卒中看護分野）・ 特定行為研修課程
1 / 9（火）	仕事始め式
1 / 13（土）、14（日）	大学入学共通テスト

※次号（224号）は来年1月15日（月）に配信します。